

## BOX 便り

### 日本グライダークラブへ武者修行

3年生 清水 美里

年末年始の帰省に併せて板倉滑空場にお邪魔させていただきました。

そのことについて記事にしてほしいと窪田さんから打診されたので、書いていきたいと思います。武者修行というほどそんな凄まじい意気込みで乗り込んだわけじゃありませんが…。

しかし、この遠征は航空部のブログで書いたので実際に何をしたかということは全く同じなので依頼内容とは少し逸れますがこの一年の私のことを振り返りながら綴っていこうと思います。板倉について詳しく知りたい方はブログのほうもご覧ください。

板倉滑空場で運航している日本グライダークラブ（以下 JSC と表記）では若い世代を支援するためにラインボーイ制度というのを施行しています。簡単に言うと運航のお手伝いをする代わりに1フライトが無料、交通費まで貰えるという制度です。航空部を卒業してから社会人クラブに入るときにも選択肢になりうるのでもとてもいい制度だと思います。

後席には世界選手権に出場した丸井さんに乗っていただきました。

サーマル、リッジでソアリングしている間に後席からとんでくる沢山の知識に圧倒されながらの1+04のフライトでした。

上がっている機体の下に入れば上がるサーマルもあったのに、全然上がらないサーマルもあるその差、山の有無によつての風量の変わりよう、尾根や谷を見てのリッジの探し方など…。

JSC のとても良いと思ったところはその日の運航が終わった後に今日の気象の概況を丸井さん

や櫻井さんが説明するところです。私とか特になんかプラスがあったから回ったら上がれたみたいなことを繰り返している人間だと一生涯にいる時点で気象が読めないで皆で知識を共有するのはいい制度だなんて思いました。

ときたま OB も含めたミーティングでも議題に上がっていますが、毎週学科を上級生が下級生に向けてやっていますが、よくわかっていない学生が人に教えるのはとても非効率なことだと思います。例えばウェーブソアリングの学科をするときに私は実際にウェーブに遭遇したことなど人生ではありません。バブルモデルのサーマルという概念を知っていても何の役に立つのか全く知りません。教官が一人もいないなどという大学もありながら折角同志社は教官陣に恵まれているのに知識の継承という点でこんな非効率なことはないと思います。JSC のようにちゃんと知識のある人が student pilot また学生の private pilot に対して知識を継承していくシステムを構築すべきと感じました。

以前、「日本では航空部という若年層が大量にグライダーに関わることができる受け皿が存在するのに、どんどん業界が衰退していくのは何故か」という記事を読みました。その記事の結論は「航空部でグライダー以外のことに精神を摩耗しすぎて楽しみを見いだせなくなって卒業後も同じ業界に関わりたくないという人が多い」というものでした。私が昨年度の翔友で「部内のことで精神を摩耗して、グライダーが嫌いになるというのが想定している最悪の未来」ということを書きました。想定は現実となり今年度の7月に部活を辞めようと監督らにもちかけそのまま10月頭まで部から姿を消していました。また部に帰ってきた理由は

他大の友達に会いたいからです。同志社の先輩方の中にもグライダーが好きなのに辞めていった先輩方を沢山知っています。自分で言うのもなんですがグライダーが好きで休みの日にほかの滑空場に行ったり、アメリカまで行ったりするような人間が辞めなくなる組織って、何か根本的に間違えているのではないかと思います。丸井さんは「やっぱりグライダーが楽しいからここまでグライダーを続けてきた、楽しむのが一番大事」と仰っていました。もちろん楽しむだけが部活ではないと思います。

しかしフライト以外の関係ないところに精力を注がねばならないために今の同志社の衰退があると私は考えます。現状を変えるのは根気のいる作業です。でも、未来のために現状をよりよくする術を皆で考えていこうと思います。この文章を読んでいらっしゃるOBの皆様方、私たちに助けていただけないでしょうか。

最後に、受け入れてくださった日本グライダークラブの皆様方、有難うございました。



## 1年生 (現2年生) に聞く

### 「君の入部動機と部活から得たいものを教えて」

2年生 池田 黎

私は空を飛ぶことにずっと憧れを抱いていました。それはジブリ映画「風の谷のナウシカ」が大好きで、主人公ナウシカみたいに空を自由に飛びたいと思っていたからです。新歓で先輩方にユーモアがあり心優しいということが分かったこともあり、体験搭乗をする前に入部を決めてしまいました。今思い返せば優柔不断な私にとっては本当に早い決断だったなと思います。ただ入部してからはかなり四苦八苦しています。学科では、初めて聞く言葉ばかりで覚えなければいけない知識が多く、私はなかなか覚えられず始めの頃は戸惑いました。また、学科や合宿だけでなく整備や陸送なども頻繁にあり、航空部の活動はとても忙しいです。

ただ、航空部では私にとって得られることがたくさんあります。一つは積極性です。特に合宿では学ぶ意欲を持ち積極的に参加しなければいけません。私は積極的に行動することがとても苦手です。しかし自分自身の成長のために失敗を恐れず、同輩の姿を見習って積極性を身につけたいと思います。もう一つは周りを見て行動する力です。これはランウェイワークだけでなく、フライトにおいても大切です。一人の力ではグライダーで飛ぶことは出来ません。周りの協力があってこそ飛ぶことが出来るのでチームワークを大切に、また効率よくグライダーを飛ばすためにも周りを見て行動することが出来るようにしたいです。

フライトに関しては、ソロに出ることを目標にしています。今は教官同乗ですが、それでも空では冷静でいられない時があります。技量も上げることももちろん必要ですが、ソロ飛行でも冷静沈着でいられるような精神力も身につけたいと思

います。技量や精神力を培うためにも座学の方もしっかりと取り組みます。また私は今、機体系の21養成に入っています。合宿で、機体の組みばらしを手伝わせてもらうようになって、スピードを求め、考えながら機体の組みばらしを行う楽しさを実感しつつあります。2回生で認定をもらえるように上回生の方からたくさん学んでいきたいと思っています。

空を飛ぶことを楽しむという初心を忘れずに、今私が持っていないものを航空部での活動で手に入れられるよう頑張りたいと思います。

2年生 登島琢也

私が航空部に入部したのは前々から航空機に興味があり、将来的にも航空業界に関係する職務に就きたいと考えているからです。しかし本当に入部した真意はただ単純に飛びたいというただそれだけです。少しずつですが、発数を伸ばしていく中でその楽しさの中にある難しさに気づいてきました。ただ飛ぶだけでなく、滑空比や旋回半径、失っていく高度を意識しつつ空の状況も考慮して今自分に何が出来るのかを考えて飛ぶということは入部前の私には考えてもいなかったことであり、入部して驚いたことの1つです。それらを総合的に判断するためには、これからの経験と知識を身につけることがとても大事だと考えています。

航空部生活では、合宿だけではなくミーティングや整備、陸送などにも時間を取られることが多くありますが、それも合宿を円滑に運営するために必要不可欠なことです。それらを経験する中で機体のことや合宿運営など様々なことを知ることが出来る良い機会であり、これらを行う中では計

画性や判断能力、実行力が求められます。その中で困難にあたることもあります。楽しくできているのは助け合うことのできる部員がいるからだと思います。

入部し今までたくさん辛いことや、大変だなと思うこと、嫌なことありましたが、いつも支えてくれる人がいました。大学に入るまでは上からの指示に従い言われるがままに行動していましたが大学に入学してからは自分で考え行動することの量が格段に増えます。その中で頼ることができる存在が身近にいるということは当たり前ではないということに気づくことができ、恵まれていると心から思いました。自分はいつも支えてもらっているばかりですが、これからは支えてもらうだけでなく支えていける思いやりのある人になりたいと考えています。

これから同志社大学の航空部員として、ASW28-18に搭乗することは夢であり、目標であります。今は共有機体で教官と同乗で訓練をするしかありませんが、いつかはASK13でソロに出て、ステップアップし全国大会で活躍できる選手になりたいと考えています。そのためにも今何が自分にできるのかを常に問い続け、常に成長し続けることのできる人になりたいと考えています。

## 2年生 碓 康

中学、高校と運動部で活動を続けていた私は、大学でも体育会に入ろうと思っていました。

新歓期間に様々な部活・サークルを探していたところ今まで聞いたことがなかった「航空部」と書かれたビラを受け取り、何をする部活なんだろうと興味を持ちました。もともと鉄道や航空機な

どの乗り物が好きだったので「航空」という文字にとっても惹かれました。1人でブースに行き、先輩の話や鳥人間でもなくパラグライダーでもない、エンジンがついていないグライダーで空を飛ぶということに最初は全く理解ができず、体験搭乗に参加してみよう考えました。どこで訓練をするのだろうと思いつつ車で連れていかれたのはなんと岐阜県でもとても驚きました。あいにくその日は正午ぐらいから雨が降ってきたため、体験搭乗をすることなく木曾川まで行って引き返したただけでした。しかし体験搭乗はできなかったものの、グライダー用のR/Wやドライバーの運転の上手さ、そして他の部活・サークルと比べて3、4回生がとて優しく、社会性を身につけていることにとて感心し、この部活に入ったら自分にとってきっと意義のあるものを身につけられるかもしれないと思いました。2回目の体験搭乗に行けるよう取り計らってもらい、無事体験搭乗をすることができました。体験搭乗では操縦桿も触らせてもらい、操縦することの楽しさも経験することができ入部を決意しました。

入部してからは、実際に搭乗して操縦するだけでなく、地上での学科や、合宿での係の仕事などで覚えることはとても多く、今でも自分が養成に入っている係のことで知らないことがあっても忙しいです。しかし、航空部に入ってから常に目標を立て、達成することが習慣になりました。具体的に言えば、課目UPを目指すことであったり、係、ドライバーの認定を取るといったことです。目標を立てればそこに向かってやることができると自身を向上させることができると私は思います。またその能力も航空部で自然に得たものだと感じています。

航空部で得たいものとしては、他に先輩のような社会性と、自然に状況を見て判断できる能力があります。これらは合宿の回数を重ね、怒られながらも教官や先輩とコミュニケーションをとることによって行動し、得たいと思っています。そして、大学を卒業し、社会人となった時に、その航空部で得た能力を活用していきたいと考えています。

## 2年生 磐前 紀乃

あつという間に一年が経ってしまい、総発数も50発を超え、単独飛行を意識する時期にきてしまいました。しかし、一年前の自分は、まさか体育会の部活に入ることになるとは思いもよらなかったし、航空部の存在も知りませんでした。そう考えるとこの一年は本当に濃いものだったのだな、と感じます。

私が航空部を知ったきっかけは、4月2日に京田辺キャンパスの正門に入ってすぐあったグライダーを見たことです。先輩がグライダーについて話す姿がとても楽しそうで、自分が考えたこともなかった世界にとっても魅力を感じたのを覚えています。サークルの新歓、ご飯会などには躊躇して全くいかなかった私ですが、航空部の体験搭乗には行ってみようと思いました。体験搭乗で人生初めて搭乗したグライダーはJA30GCでした。何もわからないままコックピットに座って、教官と一緒に飛びました。これは後からみて分かったことです。ウインチで引っ張られた瞬間、一気に上がってものすごいGを感じ、ジェットコースターかと思った瞬間、空が広がっていました。車も家もとても小さく、小さなことをすべて忘れられる感

覚で本当に感動しました。これをきっかけに、やっぱり航空部に入ろうと決めました。

今はフライトをしていると色々考えることが多く、最初の空を飛んだ感動を忘れてしまうこともあります。考えすぎて一つのことに集中しすぎたな、と思ったときは、初心にもどって空を眺めます。そうするといつも私はやはり空を飛ぶのが好きなんだと感じます。フライトだけではなく、合宿で他大の航空部員と出会って話したり、温泉やご飯を食べに行ったり、教官の話を聞いたり、整備したり、航空部で楽しいことはたくさんあり、航空部の活動は大学生になった私にとってとても重要な活動になりました。

私はこの航空部の活動を通して、やはりASW28で全国大会に出場するという目標を達成したいです。ASW28は航空部に入学してすぐに格納庫で乗せてもらいました。最初は最新の機能が揃ったこの機体に乗れる日は想像ができませんでした。その後の合宿で、山口さんがW28に乗られているのを見て、自分も乗りたい、という気持ちが強まり、そのために頑張ろうと思いました。

今航空部に入って、グライダーのことだけでなく、仕事のやり方まで様々なことを学んでいます。このまま航空部を続け、W28で全国大会にでるという目標に向かって続けていけば必ず得られるものがたくさんあると思います。これからの航空部生活も楽しもうと思います。

3年生、4年生に聞いた・・・

## 航空部 あるある!?

ここが好き!

- ・空を飛べる
- ・敬礼という動作が格好良い
- ・自分が乗るにも地上から見るのでも離陸上昇を見て  
いるときの高揚感は何物にも代えがたい!
- ・パワハラがない
- ・他大学を含め広く仲良くなれる
- ・操縦次第でいつまでも機体に乗れること
- ・他校の友達がいっぱいできる
- ・会う人みんな、リスペクトできる点がある

ここが嫌い!

- ・制約が多い
- ・宿舎が汚い
- ・自大OBから他大の先輩から後輩まで関わる人が余  
りにも多く、全然名前が覚えられなかった
- ・格納庫までが遠い
- ・日帰りで飛べない
- ・グライダーに乗る楽しさが分からなくなる時がある
- ・『ここだけの話』がすぐ広まる

ここが変?

- ・係を取れば取るほどしんどくなる
- ・めでたいことがあっても、自分が出費して祝う
- ・ご飯を食べる時の「同志社いただき」「しまーす」のやりとり
- ・サブリナウィンチだってTOST社なのに「トーストウィンチ」  
を名乗る
- ・めでたい金をとられる
- ・留年をものもしない
- ・お金が手から離れていく
- ・活動している動画を撮るとほかのスポーツに比べて地味になる
- ・明文化された決まりがない
- ・一週間の大会が授業期間中